

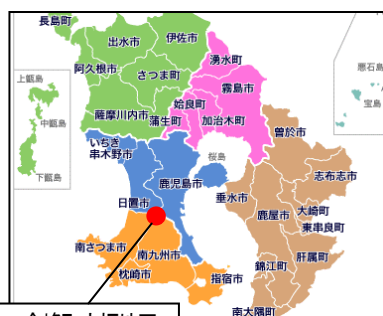
モデル事業名	元気集落「高齢化率60%」からの挑戦
活動団体名	特定非営利活動法人プロジェクト南からの潮流
ホームページ	http://ww61.tiki.ne.jp/~npo-kaseda/
所属/ 担当者名	事務局/田端順子
連絡先	TEL・FAX0993-52-7829 Eメール npo-kaseda@mx61.tiki.ne.jp
活動地域	鹿児島県南さつま市金峰町大坂地区(長谷・大平・黄和田集落)

### ● 活動地域の概要

鹿児島県南さつま市大坂地区は、14の集落で形成されている。世帯数の動向に見られるように、特に今回対象地域にしている長谷集落・大平集落・黄和田集落の3集落は、世帯数及び人口減が顕著に見られる。また高齢化率が年々高くなっている。特に長谷集落においては高齢化率80%を超えている。公共交通もなく産業もない高齢者が寄り添って生活をしているところである。

世帯数	H3	H8	H13	H18	H21
大平	21	18	18	17	18
黄和田	35	35	34	28	28
長谷	27	25	23	24	17

人口	H3	H11	H16	H21
大平	44	33	34	33
黄和田	79	72	60	57
長谷	50	43	39	26



金峰町大坂地区 【位置図】



【長谷集落にある稚児の滝】



【過疎化が進む山間部地域】

### ● 活動地域の課題

鹿児島県南さつま市金峰町大坂地区は、地区内の高齢化率が60%を超える地域で地域コミュニティの維持・存続がやぶまれ、当地域の長谷集落においては、平成18年度からNPO法人プロジェクト南からの潮流と地域住民が都市住民との交流事業を中心とした共生協働事業に取り組み、平成20年度は、地域住民・行政・NPO法人が一体となって「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業に取り組んできた所である。交流人口は増え、地域の活性化も見られモデル事業として視察等も増えてきた事は評価に値すると考えられる。しかしながら、今までの活動を通して、未だ基幹となる産業はなく、また人口減が続き、地域住民の先が見えないらしの解消にはいたっていない。今後の大きな課題である。

### ● 活動の内容

#### ・平成20年度

- ① 金峰町大坂地区道標制作及び設置作業
- ② 稚児の滝周辺景観づくり作業
- ③ 陶芸窯作り整備事業

#### ・平成21年度

- ① 自然体験散策ツアー
- ② 陶芸の里づくり
- ③ 空き家活用

## ● 活動の成果

### ・平成20年度

地域住民が元気になったこと。毎日毎日会えて話しができる。池を造るにはどうすればいいか。どこから伐採しようか。いろんなことをみんなで話しをするコミュニティ再生である。集合することで元気がでる。自分たちが出来る事を工夫してやりとげる。その喜びをみんなで味わうことが何よりの成果である。決められた日だけの作業で完了するのではという計画が崩れた時、こちらがどうこう言う前に地域住民の自主作業が始まったこと。それにつれて、鹿児島市に住む子どもたち(60歳以上)が帰ってきて、作業の手伝いを始めたことは、今後の長谷集落に明るい日差しが見えてきたのではと感じる。地域住民との信頼関係が大切。よく話しを聞くこと、顔を合わす機会を増やすこと。それから住民が何をどうしたいのか確認作業をすること。自分たちがやりたかったことを計画すると自主作業も生まれる。する喜びが湧く。このことをいつも心に留めて取り組むことをいつも考えている。



自然木の道標を5箇所設置する

作業中たくさんの方々が見学に来ている。どうしてこんな事業ができるのか。どうしてこんなに地域がまとまっているのか。事業がはじまってから、車が多くなった。駐車場をどげんかせんといかんと言つた。関係者以外の車が駐車することのなかった村が活気付いている。山道を車が走っている。この地の人は不思議そうに言う。「めずらしいのだろうか」と。

過疎の村でいろんな音がしている。この音が元気のしるしだと地域住民に話している。

### ・平成21年度

鹿児島国際大学経済学部地域振興を勉強している学生が新聞記事等で過疎の村に目をつけて、昨年からの学習の対象にしてくれている。今年も35名の学生が住民の話を聞き、そして見る。質疑応答で「コンビニもないのに不便はありませんか」「携帯電話も通じない所で生活ができますね」「水道設備もないし、山水で健康に害はないのですか」と。そして「何が楽しいか教えて下さい」便利な生活をしている若者たちが、地域の人たちと話し、草刈りやまき割りをしていくうちにうちとけ、休みの度に数人で遊びに来るようになった。また、鹿児島大学の学生もそば植えや木の伐採の手伝いにこの一年のべ20数名が訪れている。



「ちごの滝窯」の火入れ

このなにもない過疎の村がどのように若い人の目に映っているか興味深く、この若い人たちに空き家利用のアイデアを今募集中である。

登り窯も陶芸教室も順調に運営されており、交流人口は昨年の3倍を超えている。しかしながら、これからが大変な気がしてならない。

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

この2年間、がむしゃらにここ稚児の滝を訪れ、活動してきた。「新たな公」は、いま住んでいる住民にとって「元気がでてきた」「人が来るようになった」と感謝でいつもいっぱいである。でも「本当に空気もよくて、住んでみたい」「鹿児島から近いから、週末ここで野菜等を植えて暮らしたい」訪れた人は「いいところ」といって帰っていく。人口推移でもわかるように、毎年人口は減っている。「いいところ」で今は終わっており、ここを打破するのは、陶芸の里ともう一つ、生産性のある第一次産業の育成が必要だと考える。

### ・展望

新たな人口増を図る対策を取っていく事が今後の使命であり、交流人口は増えても定住人口を増やさなければコミュニティの明日はみえない。鹿児島県南さつま市大坂地区、特にここ長谷は、林業で長年生計をなしていた今でも細々とシイタケ栽培をしている。地域特産品販売所で最初に完売するのは、このシイタケである。

稚児の滝周辺は杉山とクヌギ等の雑木でおおわれているので、このクヌギ等の雑木を利用し、おおがかりにシイタケ栽培に取り組み、乾燥機等を揃え、シイタケ・ヒラタケ・キクラゲ栽培に来年度から取り組み、雇用も含めて、働く環境を整える取り組みを検討している。